

新潟県中越地方の04年地震と07年地震からの地域の復興

2008年6月28日 平井邦彦(長岡造形大学)

1. 04年10月23日・中越地震+07年7月16日・中越沖地震=地方都市地震被災

- ・中越地震-----町場被害、平場大被害、山場壊滅的被害、海辺被害軽微
- ・中越沖地震-----町場壊滅的被害、平場被害、山場被害軽微、海辺大被害(原発も)
中越地震の主たる被災地---川口町、小千谷市、
長岡市(旧長岡市、旧山古志村、旧小国町等)
中越沖地震主たる被災地---柏崎市(旧柏崎市、西山町)刈羽村、出雲崎町
そして東京電力柏崎刈羽原発(全7基は今も停止)
- ・豪雪と津波が重ならなかったのは幸運-----05年2、3月は19年ぶりの豪雪
- ・復旧・復興は04年地震は2段階進行、07年地震は同時進行。

2. 両地震ともに復興のキーワードは持続可能性----持つのか?

地震等大災害は時代の流れを加速する-----大災害は時代の流れの堰明け

- ・落ちるものは一気に、伸びるものも一気に

地震前に進んでいた地方都市の時代の流れ

- ・中山間地-----過疎・高齢化、棚田等の耕作放棄、山林荒廃等が進む。限界集落問題。
- ・町場(中心市街地)-----商店街空洞化、人口減少で住宅地も高齢世帯や空家が増加
- ・平場(かつての水田、郊外化進む)-----減反政策のもと農業の将来見えず
- ・海辺-----かつて北前船で栄えた港町は多。しかし、過疎高齢化進む。

時代の流れが加速するとすれば容易ならざる前途

- ・落ちる可能性大のものばかり。一気に伸びていくものがあるか?
- ・04年中越地震は4年目から本格復興。中山間地に戻った被災者は7割。
すでに無人となった集落もいくつか発生。
- ・07年中越沖地震、原発廃炉には柏崎市、刈羽村は第2の釜石、夕張の覚悟必要
新潟県は両地震ともに「震災復興ビジョン作成」
- ・復興とは「活力に満ちた新たな持続可能性の獲得」と定義

3. 復興に向けて-----新しい循環関係の形成

自立とは自己完結ではなく、「他との豊かな相互依存関係の形成」

- ・かつての出稼ぎは、金だけでなく各地の文化、情報を運んだ---循環を形成
- ・地方都市の活力低下は他との相互依存関係の喪失ともいえる
町場も平場も山場も中山間地も海辺も同じ-----起きていることは共通
- ・原発も一つのものに頼りきりの危うさ示す
電子部品や自動車部品(リケン)の供給途絶問題も同じ

- ・新しい循環関係の形成へ-----最先端と最素朴の絶妙なマッチングを

地域資源の発掘・磨き上げと内外の需要とのマッチング活動の展開----新しい出稼ぎ

- ・地域資源---人、もの、技術、景観。被災地まるごとアーカイブス。
- ・マッチングを担う人材、技術、ノウハウ-----県の基金事業による地域復興支援
- ・が、これは中越独自の課題ではない。全国地方都市、中山間地の共通課題。

国土保全、国土景観に関する意識は今後10年で劇的に変わる

- ・農「業」、林「業」ではない新しい「業」が必要とされる時代に。
- ・あと10年の辛抱。